

Smith, John Thomas

Vagabondiana ; or, anecdotes of mendicant wanderers through the streets of London.

London, J. and A. Arch, 1817. (文献番号5-36)

Hiler p.804 Colas 2756 Lipperheide 1023

スミス画

放浪者達；ロンドンの路上をさまよう乞食達の逸話集

本書は『ロンドンとその周辺の目立った乞食達、行商人、悪名高い人々の銅版画集』Etchings of remarkable beggars, itinerant traders, and other persons of notoriety in London and its environs. の表題でジョン・トマス・スミス (John Thomas Smith 1766—1833) によって1815—1816年に描かれた48枚の図集をもとに、好古家で大英博物館の写本室長を務めたフランシス・ドゥース (Francis Douce 1757—1834) による52頁に及ぶ放浪者達の史的なエピソードを付して、1817年にロンドンの J. and A. Arch 商会から発売された。

エッチングに手彩色が施された図版は、コベント・ガーデンで物乞いする盲人、いざり、黒人や呼び売り、大道芸人達をスケッチしている。各図版の下には日付と場所、画家の名前が記されている。いずれも1815年12月31日—1816年6月4日の間に描かれたいわば放浪者達の姿である。中には、下層民とはいえ当然シルクハットをかぶり、ステッキを持ち、古びたフロックコートを身に付けて物乞いしている姿など、時代性がうかがえて興味深い。

本学図書館には、本書の特装版もある。特装版には中世の貴重な版画から複写した beggar (乞食) の口絵がある。更に、F. ドゥースが所有している図版から複写したエリザベス女王時代 (1558—1603)、エドワード6世時代 (1547—1553)、ヘンリー7世時代 (1485—1509) の乞食3人の姿を描いた右図1枚を加えてJ. T. スミスの銅版画31枚を1枚ごとに逸話の間に挟み込んで、美しいマーブル紙で装幀されている。反対に特装版には色彩が施されていない。

J. T. スミスは、彫刻家で後に版画商となったナザニエル・スミスの息子としてロンドンに生まれた。彼はロンドン、ウエストミンスター区のデッサン画家、銅版画家として活躍し、1816年9月から1833年に亡くなるまで大英博物館の版画・素描室長を務めた。彼は『ロンドンの呼び売り』The cries of London ; exhibiting several of the



itinerant traders of antient and modern times. London, J. B. Nichols, 1839 の著者としても知られている。この『ロンドンの呼び売り』は、著者の死後F. ドゥースの改訂テキストを加えて1839年に刊行された。

ベアールの『呼び売りと行商人の文献目録』Cries and itinerant trades ; a bibliography, by Karen F. Beall. Hamburg, E. Hauswedell, 1975 <383.103-B>によれば、世界の呼び売り・行商人に関する文献は、約500タイトルに及び、その内の98タイトルはイギリス国内各地の類書である。それらの大部分は、19世紀に刊行され、当時の社会、民衆文化を反映する格好の資料であり、研究の対象として新たな脚光を浴びている。

下図左はコベント・ガーデンで物乞いする盲人といざり。1816年4月30日の日付がある。

下図右は子供のおもちゃ「ガラガラ」を売る盲人の父子。

(内野)

